

翌日の17日は、都留文科大学の教室で4つのテーマに分かれ、分科会を開催しました。参加者は、各テーマから興味ある会を選び、参加ができる形式で、各分科会ともに大盛況でした。また、午後からは各分科会での発表内容を共有するため、全体会が行われました。

■分科会1

「自治体の課題と挑戦」
パネラー

岡山県西栗倉村
群馬県桐生市
富山県黒部市

この分科会では、自治体が小水力発電にチャレンジする際のポイントに重点を置き、意見が交わされました。

自治体が発電事業を行う際、発電した電気をいかに活用するかを事前に明確にする必要性や、自治体単独ではなく、設置には市民参加が必要であるということが中心的な議題となりました。

また、まだまだ法的に超えるべきハードルが高いことなどの意見もあり、今後、関係機関への働きかけの必要性が高いなどの意見が取りまとめられました。

■分科会2

「小水力による農山村のエネルギー自立」
パネラー

山梨県都留市
秋田県西目土地改良区
徳島県上勝町

この分科会では、中山間地などの農山村が、小水力発電を核としたエネルギー自立に向けて取り組む際のポイントを中心に意見が交わされました。

まず、エネルギー自立とは、小水力発電などを契機に地域の自立を図ることであることを確認しました。この上で、たとえば地域に1万世帯が居住していれば、エネルギーコストには百億円／年かかることとな

り、この金額を自給することで雇用問題解決に使えないか、という提案が出されました。この他、地域に必要な電力は、大手の電力会社が供給するような高品質の電力である必要はなく、電気の質を下げればコストも下げられるのではないかといった意見も出されました。

■分科会3

「市民エネルギー事業としての小水力」
パネラー

高家領水車母さんの会
やすらぎの里いとしろ
おひさま進歩エネルギー
環境エネルギー政策研究所

この分科会では、市民主体で小水力発電を行う場合のポイントについて話し合われました。

この中で、市民がエネルギー事業を始めるには、先ずその事業に関わる人の思いが必要であることや、地域の技術を見出し、活用する、そのためには関わる人の思いや信頼関係が必要であるという意見が交わされました。また、資金面の問題として、行政からの補助金の必要性や、市民出資などの仕組みづくりが重要であることなどが挙げられました。

■分科会4

「小水力甲子園」
パネラー

山形県 鶴岡工業高等専門学校

富山県 富山工業高等学校
岐阜県 岐阜高等専門学校
熊本県 球磨工業高等学校
山梨県 谷村工業高等学校
この分科会では、5県から高等専門学校（高専）の学生と、工業高校の学生が集まり、それぞれの取り組みの成果を発表しました。

まず、学校と地域の関わりとして、地域の小水力発電の啓蒙に対する学校の役割が大切であるということや、発電した電気をいかに使うか、また、電気を使うことで地域を変えていくことが大切だといった報告がされました。

